

会議録

| | | | | | | |
|--------------|---|--------|------|-------------------|----------|---|
| 会議の名称 | 令和6年度第2回東松山市地域自立支援協議会全体会 | | | | | |
| 開催日時 | 令和7年3月18日（火曜日） | | | 開会 | 午前10時 | |
| | | | | 閉会 | 午前11時40分 | |
| 開催場所 | 東松山市総合会館多目的ホールB | | | | | |
| 会議次第 | 1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 各プロジェクト・連絡会議からの報告 (2) SDGs／合理的配慮推進の取組について (3) 各連絡会議・プロジェクトへの全体会委員の関わりに係る希望について (4) 来年度スケジュール（案）について 4 その他 | | | | | |
| 公開・非公開の別 | 公開 | | 傍聴者数 | 0人 | | |
| 委員出欠状況 | 会長 | 朝日 雅也 | 出 | 委員 | 佐藤 美奈 | 出 |
| | 委員 | 丹羽 彩文 | 欠 | 委員 | 矢部 智之 | 出 |
| | 委員 | 岸澤 進 | 欠 | 委員 | 浅野 聖子 | 出 |
| | 委員 | 武田 耕典 | 出 | 委員 | 羽鳥 良江 | 出 |
| | 委員 | 松井 治子 | 出 | 委員 | 横田 大輔 | 出 |
| | 委員 | 上野 秀爾 | 欠 | 委員 | 小池 千佳 | 欠 |
| | 委員 | 池永 和美 | 欠 | 委員 | 長澤 誠 | 欠 |
| | 委員 | 川上 嘉久 | 欠 | 委員 | 和久井 洋助 | 欠 |
| | 委員 | 原子 一彦 | 出 | 委員 | 磯崎 祐子 | 出 |
| | 委員 | 奥村 一彦 | 出 | 委員 | 牛久保 菜々子 | 出 |
| | 委員 | 若尾 勝己 | 欠 | 委員 | 榎本 淳也 | 欠 |
| | 委員 | 若林 茂 | 出 | 委員 | 富樫 正紀 | 出 |
| | 委員 | 小西 尊晴 | 欠 | 委員 | 安藤 知佳子 | 出 |
| | 委員 | 大石 和夫 | 出 | 委員 | 久保田 慶一 | 出 |
| | 委員 | 田原 祐己子 | 出 | 委員 | 落合 要之 | 出 |
| 委員 | 荻野 裕 | 出 | 委員 | 小野澤 俊夫 | 出 | |
| 各プロジェクト・連絡会議 | 東松山障害者就労支援センター 木村 孝 | | | 東松山市社会福祉協議会 橋本 有希 | | |
| | 西部・比企地域支援センター 南澤 甫 | | | 東松山市社会福祉協議会 林 茂史 | | |
| | 比企生活支援センター 関 和範 | | | | | |
| 事務局 | 健康福祉部 田嶋部長 | | | 健康福祉部 山口次長 | | |
| | 障害者福祉課 荻原副課長 | | | 障害者福祉課 小松主査 | | |
| | 障害者福祉課 大曾根主査 | | | 障害者福祉課 金子主任 | | |

| 次 第 | 顛 末 |
|---|---|
| <p>1 開会 事務局 (障害者福祉課 荻原副課長)</p> | <p>皆様 こんにちは。 本日はお忙しい中、お集まりをいただきまして誠にありがとうございます。 私は、本日の司会を担当いたします障害者福祉課の荻原と申します。 どうぞよろしく願いいたします。 それでは、ただ今から令和6年度第2回東松山市地域自立支援協議会全体会を開会いたします。 はじめに、本協議会の会長であります朝日会長よりご挨拶いただきます。</p> |
| <p>2 あいさつ 朝日会長</p> <p>事務局 (障害者福祉課 荻原副課長)</p> | <p>— 挨拶 —</p> <p>ありがとうございました。 本日の会議の会議録作成にあたり、出席委員2名の方に署名をお願いしたいと存じます。本日の会議録につきましては、横田委員と原子委員をお願いいたします。後日、会議録ができましたら事務局よりご連絡を申し上げますので御署名をお願いいたします。</p> |
| <p>3 議事 事務局 (障害者福祉課 荻原副課長)</p> <p>朝日会長</p> <p>委員一同</p> <p>朝日会長</p> | <p>それでは議事に入ります。議事につきましては、東松山市地域自立支援協議会開催要綱により、会長が進行を務めることとなっておりますので、朝日会長よろしく願いいたします。</p> <p>では、しばらくの間、議事を進行してまいりますので、皆様方のご協力をよろしく願いいたします。 まず、議事に入る前に、確認事項がございます。東松山市審議会等の会議の公開に関する要綱では、会議の公開・非公開の決定を会に諮って決めることになっております。本日の会議を公開の会議といたしまして、会議資料や会議録を公表してよろしいでしょうか。</p> <p>— 異議なし —</p> <p>それでは、本日の会議は公開とします。事務局に確認です。本日、傍聴希望者の方はいらっしゃいますか。</p> |

| | |
|-----------------------------------|---|
| <p>事務局 (障害者福祉課 荻原副課長)</p> | <p>いらっしやいません。</p> |
| <p>朝日会長</p> | <p>では、議事に移ります。次第に従って進めてまいります。議事の(1)各プロジェクト連絡会議からの報告です。各プロジェクト・連絡会議から令和6年度の進捗についてご報告をいただきたいと思います。 皆様からの質疑応答につきましては、全ての報告が終わった後で、お願いをしたいと思います。それでは、障害者進路支援連絡会議からお願いをしたいと思います。</p> |
| <p>木村リーダー</p> | <p>— 障害者進路支援連絡会議について報告 —</p> |
| <p>朝日会長</p> | <p>続いて、障害のあるこどもの育ちと学びを支える連絡会議から報告をお願いします。</p> |
| <p>橋本リーダー</p> | <p>— 障害のあるこどもの育ちと学びを支える連絡会議について報告 —</p> |
| <p>朝日会長</p> | <p>続いて、医療・福祉連携プロジェクトから報告をお願いします。</p> |
| <p>南澤リーダー</p> | <p>— 医療・福祉連携プロジェクトについて報告 —</p> |
| <p>朝日会長</p> | <p>続いて、地域生活支援拠点等連絡会議から報告をお願いします。</p> |
| <p>林リーダー</p> | <p>— 地域生活支援拠点等連絡会議について報告 —</p> |
| <p>朝日会長</p> | <p>ただいま各プロジェクト・連絡会議から報告がございました。委員の皆様からご質問やご意見があればいただきたいと思います。まずは、障害者進路支援連絡会議について、ご質問、ご意見のある方はいらっしやいますか。</p> |
| <p>武田委員</p> | <p>12頁に記載の内容で二点お聞きしたいことがあります。一点は、手帳を持たないお子さんというのは、障害がなくて持っていないということなのか教えていただければと思います。もう一点は、令和6年度に新規協力企業が一社あります。新規協力企業を探すというのはかなり大変なように思いますが、どういったことに気を付けながらどのように探しているのかについて教えてください。</p> |
| <p>木村リーダー</p> | <p>手帳のないお子さんについては、障害があるお子さんでも手帳を取り</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>たかない保護者の方や、障害はあるけれども、手帳取得にならない程度のお子さんなども含まれています。</p> <p>新規企業の開拓につきましては、これまでは障害者雇用に理解のある企業に依頼をしていましたが、幹事会でもご意見をいただきまして、来年度については、障害者雇用の産業別の実態、製造業だったりサービス業だったりどんな職種の企業が多いのか、どういった分野で雇用が進んでいるのかなども把握し関連付けながら、職業体験に協力いただける企業を増やしていけたら良いと考えています。</p> |
| 朝日会長 | ほかにはいかがでしょうか。 |
| 牛久保委員 | <p>手帳を持たないグレーゾーンの保護者の方々に、情報を知りたいけれどもどうやって手に入れたらよいかと、難しさを感じる方が多いと思いますが、そういった方にどのようにこれから情報提供していくのか、方向性やお考えがあればお聞かせください。</p> <p>もう一つ、これは意見になりますが、障害者雇用を行っていない企業の方々の話があったと思いますが、私たちは毎年6月1日付で障害者の雇用状況などを管内の事業者様から報告をいただいております。今、法定雇用率が民間企業2.5%、来年の令和8年7月だったと思いますが2.7%に上がる中で、40人以上を雇用する事業者さんに障害者雇用の義務が発生してくるわけですが、雇用がない事業者も把握しています。正式な数字は手元にないのですが、概ね40社ほどです。そのゼロ企業さんに対して、私どもハローワークの交渉官が、個別に連絡や訪問などをしながら、雇用に向けた取組を企業さんとも考えております。どのようにこうした取組を共有できるかはわかりませんが、雇用をしていない企業さんにこういったイベントや、中高生の職業体験など、地域貢献ということも含めて、ハローワークとしても協力できるように思います。東松山商工会の協力を得てという話が出ていましたので、ハローワークも何かご協力できればと思っております。</p> |
| 朝日会長 | 教育や暮らしにも関わる部分ではありますが、いわゆるグレーゾーンの手帳をお持ちでない方への情報提供の工夫や方法についてのご質問ですね。 |
| 牛久保委員 | ハローワークではSNSの活用として、LINEですと気軽に登録していただけるので、そこにハローワークのイベントや管内企業の情報、こういう会社さんが今、求人を出しています等、そういった情報を発信させていただいております。SNSの活用も方法の一つかと思っております。 |
| 朝日会長 | 実践例のご紹介もいただき、ありがとうございました。 |

木村リーダー

情報提供の方法については検討中です。特別支援学級や通級指導教室や支援級だけにチラシを配布しているので、可能であれば学校全体の保護者の方に一斉にメール発信するような方法が取れたらよいと考えているところですが、現在はまだ検討段階です。ご意見等あれば教えていただけるとありがたいと思います。

もう一点の障害者雇用に関しましては、連絡会議の委員の中にハローワークの担当職員の方にも入っていただいておりますので、今後ご相談させていただきながら、もっと広げていけたらよいと考えておりますのでよろしく願いいたします。

朝日会長

私からよろしいですか。意見なのですが、10頁の職業体験のアンケート結果の集計ありがとうございました。その中で、保護者の方の進路希望とあり、「一般就労ですか」、「福祉的就労ですか」、「未定ですか」と回答してもらっています。言葉としてはわかるのですが、例えば中学生のお子さんを持つ保護者の方に、お子さんに障害があることを前提にしながら、将来的に一般雇用か、福祉的就労かというのは少し固定的なイメージがあるように思います。働き方の制度に合わせれば、障害者手帳を取得して一般雇用する、就労継続支援B型を利用するなど、それぞれに働き方の価値はあるわけですが、こういう場面で将来に対して、この二つの枠組みを強く示してしまうと、最初から障害のある方の働き方はそのいずれかというような印象を与えてしまうかもしれません。そのあたりをもう少し平たく聞いていくことも重要ではと思いました。

それから先ほどから出ているグレーゾーンについては、子育て分野も関連することだと思います。先だって私も商業科を持つ高等学校の先生方の研修会に参加しました。そこは特別支援学校ではありません。ですが実際には、定員割れをする中で障害のある生徒さんが入学していて、中には障害者手帳を持ってない方もいらっしゃいます。ここからがポイントなのですが、先ほどお話にあったように、わかっているけれど障害者手帳は取りたくありませんという方と、障害自体に気が付いていない方がいます。高校に合格したから、うちのこどもに障害があるわけがないと思い込んでいるというか。実際には、基礎的なところでフォローやサポートが必要なので、その生徒さん自身が困ってしまっているようです。この観点から、グレーという一つのゾーンではあると思います。先ほど牛久保委員がおっしゃっていたように、ちょっとどうかと思う方も、自分や周囲が見てちょっと気になる方も、どなたでもどんどん遠慮なく来てくださいというように、あまり障害者雇用の対象かどうかなど決めないで、広く柔軟に情報提供していくことが重要ではないかと思います。

もう一つ、障害者雇用をしていない、いわゆるゼロ企業にとって、この体験実習というのは、障害のある方が職場実習をする意義もあります

が、企業にとっても障害がある方と一緒にこれから働いていくかもしれない、そのための実習の機会ということで、その相互性があるということをお大事にしていく必要があります。だから、企業にとって受入れは大変ということではなくて、メリットがありますという投げかけ方も、武田委員がおっしゃったご意見の留意事項としてあるのではないかと思います。

ほかにはよろしいでしょうか。

では、続いて障害のあるこどもの育ちと学びを支える連絡会議について、ご質問、ご意見をお願いします。

研修会当日の私の講演資料も配布されていて少し気恥ずかしいですが、報告にもありましたように、普段の悩み事や気づきというのが参加者の間で率直に共有できた研修会だったと思いました。印象的だったのは、幼稚園や保育園でどこかに遠足などに出かける際に、例えば、初めて行く場所で落ち着かないお子さんがいるとして、場所がわかれば児童発達支援事業所で予め連れて行ってみるなど、そういう場面でもできる協力はしますという、そういったやりとりが直接されていて、とても良かったと思いました。

なにかご質問、ご意見いかがでしょうか。

牛久保委員

16頁にある、教育プランA・Bの共有が減り、社会資源の情報を求める声が増えてきているとのことですが、教育プランA・Bとはどういったものか教えてください。

橋本リーダー

これについては埼玉県が独自に作成しているもので、学校における個別支援計画のようなものとなります。これまでの経緯や、学校の先生方による学校生活の支援、こんな目標を持ってほしいなど、そういった内容を組み立てているものになります。教育現場の方から補足があればぜひお願いします。

原子委員

教育プランA・Bと略して言いますが、個別の教育支援計画です。長期の計画がAで、主に3年スパンでその子の成育歴や現在関わっている医療機関、保護者の願いなどが記載されている長期のプランです。今年1年どういう目標を持って、この教科はこういう目標でやっていきましょうというのが、短期の個別支援計画としてプランBとしています。学校側から言いますと、例えば、特別支援学校に通うお子さんは放課後等デイサービスを利用する方がかなり多いのですが、そういうところへの引き継ぎに使えるのではないかとのお話もあります。ただ、記載内容をお話ししたとおり、個人情報満載でして、これを保護者の許可なく引き継ぐということができないため、このプランそのものを活用することは、実際は進んでいないと思います。放課後等デイサービス事業者とは

| | |
|-------------------------|---|
| | <p>連絡会等で情報交換を密に行っておりますが、プランそのものが独り歩きというか、教育の分野を超えて外に出ることはないかと思っています。また、高等部卒業後は進路先への提供をします。その時には移行支援計画と名前を変えて、これも保護者の許可を取って進路先へ情報提供するというものでもあります。</p> |
| 朝日会長 | <p>16頁については教育プランA・Bの共有が良い悪いということではなくて、ある意味皆さんの理解が進んできて、先ほどお話があったこれからの進路といった面で社会資源の情報を求める声が増えている、という理解でよろしいでしょうか。ありがとうございました。</p> |
| 大石委員 | <p>21頁の令和7年度事業計画の中で、4番にある地域自立支援協議会が担う児童発達支援センター機能に係る取組の推進について、今時点で具体的な取組がございましたら教えてください。</p> |
| 橋本リーダー | <p>報告の中でもお伝えしましたが、今年度からこどもの発達相談窓口を開設しております、その充実をしていきたいと考えております。</p> |
| 大石委員 | <p>その充実という点について、こども支援課で所管しているこども家庭センターとの関りなどはございますか。</p> |
| 事務局 (障害者福祉課 小松主査) | <p>補足説明です。児童発達支援センターの機能としては4つございます。今、橋本リーダーからお話がありましたのは、4つ目の機能である「地域の障害児の発達支援の入り口としての相談機能」について、来年度は総合教育センターにも加わっていただき、より一層充実を図ってまいりたいとするものです。それ以外の3つの機能については、既存の取組として巡回相談支援の継続実施と、進路に係る相談が増えていることを踏まえての検討も含まれます。そのほか、児童発達支援事業所への聞き取りや研修会の企画と実施も継続実施します。ご質問のこども家庭センターとの関りとしては、こどもの発達相談窓口で連携を図りたいと考えております。今年度開始した取組で、直近では29件の相談が寄せられており、相談内容も多岐に渡っています。適切な支援にどうつなげるか、その後どうなったのかなど、今後振り返りをしながら、より適切な支援方法等を検討し充実を図りたいと考えています。</p> |
| 朝日会長 | <p>ありがとうございました。ほかにはいかがでしょうか。</p> |
| 安藤委員 | <p>講演を聞いていないのでわからないのですが、22頁の「豆を挽く」というのがわからなくて、どんな内容だったのかかいつまんで教えてくださいいただけますか。</p> |

| | |
|---------------|--|
| <p>朝日会長</p> | <p>私の講演資料なので、私の方でお答えしてよろしいでしょうか。ちょっとユーモアを交えた表現で失礼しました。</p> <p>先ほどご報告いただきましたように、グループディスカッションの形式をワールドカフェという、グループメンバーを入れ替えて行う方式で行いました。カフェといえばコーヒーということで、基調講演のところで、ポイントを示す必要があることにかけて、「こんな豆を挽きます」と表現しました。22頁にありますように、国際規範は権利条約について、「子どもが監督!？」については児童の権利条約を踏まえて、親や支援者、あるいは教員が監督のような雰囲気になることが多いのですが、基本的には子どもがこうしてほしい、こうなりたいという意味では一番の監督であるという意味合いでお話をさせていただきました。最後にインクルージョンについて、インクルーシブ教育やインクルージョンと良く言いますが、わかりづらいところがあるだろうということで、図解などを示してお話をさせていただき、32頁のところで、実際にワールドカフェではお菓子をつまみながらリラックスした雰囲気で行ったと報告にもありましたが、そのための準備ということでドリップ前として最後にまとめとしました。</p> <p>私の役割として、ワールドカフェにちなんで、ユーモアとして表現したものです。安藤委員がおっしゃるように、アンケート結果にもありますが、「豆を挽くってなにかと思ったけれど、話を聞いてわかりました」という感想もいただきました。</p> |
| <p>安藤委員</p> | <p>聞いてみたいなと思ったもので。</p> |
| <p>朝日会長</p> | <p>ありがとうございます。よろしければ、また豆を挽きにまいると思います。</p> <p>ほかにはよろしいでしょうか。</p> <p>では、続いて医療・福祉連携プロジェクトについて、ご質問、ご意見をお願いします。</p> <p>私から質問ですが、東京電力パワーグリッドの方をお招きして研修を行い、緊急対策としてヒントになったとのことですが、家庭でできることなのか、電力会社の対応についての説明なのか、具体的にはどんなテーマだったのでしょうか。</p> |
| <p>南澤リーダー</p> | <p>内容としては、二部構成としまして、第一部は災害時の備えと防災対策について、埼玉県の医療ケア児地域センターの方にお話をいただきました。そこでは防災としてどういうことを大事にしているかや、個別避難計画の話、避難計画を基に実際に避難訓練を行ったお話などです。第二部の東京電力の方には停電の基礎知識、在宅医療機器への影響と対策</p> |

について口頭でお話いただきました。私たちからすると知らないことばかりでしたが、電力会社からすると基礎的な内容で、例えば、停電をしたときにどこの回線が止まってしまっているかは、実は電力会社を呼ばなくても分かることや、そもそも電気が止まっていることは悪いことではなくて、そのまま通電していると火災に発展する可能性があるために止めている場合もあることから、落ちたブレーカーをむやみに上げないほうが良いこともあるそうです。その判断の仕方や、電気が復旧するまでに何時間くらい必要なのかというお話に加え、分電盤の中のイメージも具体的に見せていただきました。最近ですと電気自動車がありますので、電気自動車で電気がどれくらい使えるのか、コンタクトセンターに問い合わせると良い等の情報提供をいただきました。

朝日会長

ありがとうございました。感想になりますが、42頁の成果と課題でお母様の産休が明けたら復職したいという就労に関するお話がありました。つい最近の朝日新聞だったと思いますが、医ケア児の保護者の就労についても、医療的ケアを必要とする障害のあるお子さんを持ったから、それまでの自分のキャリアをあきらめさせるというのではなくて、先ほど医ケア児支援法のお話もありましたが、こどもの人生と親の人生があって、なんでもかんでも家族の問題に委ねないという社会的対応が必要だと思います。そういった中で具体的にこうした話題が出ていることを興味深く伺いました。

働くことについては、県の医療的ケアのコーディネーター研修があって、今年度から厚生労働省の指針が変わったことによって、医ケア児の労働について展望できるように労働分野の話をしてくださいということで、コーディネーター研修の教材として動画で30分ほどお話をする機会を得ました。受講されたコーディネーターや支援にあたる人たちからも、労働についての展望という点はとても興味深いという反応があったと県の方からお聞きしています。今までですと、医療的ケア児はずっと医療的ケアが必要で、医ケア児と省略して言うこと自体、とても固定的な感じがします。環境や形を変えていけば、働くことについて重要な役割を担う存在と考えると、そういった面も展望していく必要があります。保護者が働くということと、御本人が働くことを軸として考えていくことが大切だと思います。

そのほかいかがでしょうか。

横田委員

3月10日に医ケア等事業所ミーティングを開催され、出席が5事業所とあります。これは、対象の事業所が5つだったのか、それともこれ以外にも対象事業所があって、参加したのが5事業所だったということなのか教えてください。

| | |
|--------|--|
| 南澤リーダー | <p>この5事業所が医ケア等事業所の対象となります。こちらの事業所は現在医療的ケアを必要とする方を受け入れている事業所や、過去受け入れたことがある事業所で、まずはそういった事業所を対象にミーティングを行っています。</p> <p>ただ、研修会当日は医療機関や保健所の職員、保護者の方、医師の方もいらっしゃいました。</p> |
| 朝日会長 | <p>ほかにはよろしいでしょうか。</p> <p>続きまして、地域生活支援拠点等について皆様いかがでしょうか。</p> <p>51頁について、事前把握51人と具体的な数字が出ています。素晴らしいと思ったのは、必要性についてアウトリーチのアプローチを取られていることです。全体の1割にあたる90人を想定している中で、まだこのほかにいるかもしれないという点でアウトリーチを行う。今は必要ないと思っているかもしれないけれども、可能性がある方を把握していくことはとても大事な部分だと思います。東松山市の規模だからこそという部分もあるかもしれませんが、こうした積みあげが重要だと思います。</p> <p>その上で質問になりますが、実際の夜間や休日に緊急時対応をした実績はありますか。</p> |
| 林リーダー | <p>今年度、正確にはまだ終了していませんが、夜間のショートステイにつなぐ緊急時対応の実績はありません。昨年度については3件の実績がありました。ただ、拠点登録に係る方の実績はありませんでしたが、緊急時対応をしたケース自体はいくつかありまして、サービス利用に至る前に、周囲の方の支援で緊急時に対応できたというケースもありましたので、事前の準備がなされているケースが増えているという理解です。</p> |
| 朝日会長 | <p>ありがとうございました。なぜ伺ったかという、警察や消防、救急は待ったなしだと思いますが、このネットワークの中で対応が必要な事象がどのように起きるか確認したかったためです。夜間だから起きないということはないと思いますが、そこだけを切り出して、夜間になにかあった場合どうするのかという点だけが膨らんでいくと、人がいくらでも足りなくなってしまう。だからこそ、そこは実態を共有しながら工夫をしたり、夜間に至る前に気が付いて昼間の対応で円滑にサービスにつなげるという対応の仕方も必要かと思いました。</p> |
| 佐藤副会長 | <p>質問ではなく、期待をこめた意見になります。朝日会長も触れられたアウトリーチの活動はとても良いと思います。51頁で、福祉サービスにつながっていない方の緊急時支援のニーズ把握を次年度行うとあります。49頁にある拠点の5つの機能を見たときに、現在は緊急時対応の</p> |

| | |
|----------------------------------|--|
| <p>朝日会長</p> | <p>体制を作り上げている段階かと思いますが、サービスを使っていない方たちについて、なにか次に備えるという場面では体験につながるような働きかけがあると良いと思います。52頁の中でも、次年度施設入所されている方の地域移行に係る聞き取りを行うとあり、これも素晴らしいと思います。障害福祉計画でも地域移行については目標とされているものの、なかなか進めるに当たり難しさがあるところだと認識しています。こういったところにも、ゆっくりであっても着手していただけると良いと思っております。</p> <p>ほかには、よろしいでしょうか。</p> <p>最後に53頁に評価が行われています。提供側の評価にとどまらず、次年度以降、ユーザー評価も取り入れていきたいとのことでした。こちらは大変期待される場所です。ぜひよろしくお願いいたします。</p> <p>では、4つのプロジェクト・連絡会議からの報告を終えました。全体的に振り返ってなにかございますでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。では議事(2)「SDGs／合理的配慮推進の取組について」に移ります。説明をお願いいたします。</p> |
| <p>関リーダー</p> | <p>— SDGs／合理的配慮推進の取組について説明 —</p> |
| <p>朝日会長</p> | <p>ただいまの説明について、皆さんからご質問ご意見等ございますでしょうか。</p> <p>最後におっしゃっていたように、合理的配慮かどうかという点も含めて、事例として挙げられたものを積み上げていくとのことでした。まさにそれは合理的配慮とはなにかという本質を考えていくためにも重要なプロセスだと思います。冒頭にバージョンアップをしていく予定があるとのことでしたので、事例を増やしたり、必要な修正を加えたりしながら合理的配慮を推進していく上での重要な事柄だと思います。</p> <p>ほかにはよろしいでしょうか。</p> <p>続いて議事(3)「各連絡会議・プロジェクトへの全体会委員の関わりに係る希望について」説明をお願いします。</p> |
| <p>事務局 (障害者福祉課 小松主査)</p> | <p>— 各連絡会議・プロジェクトへの全体会委員の関わりに係る希望について説明 —</p> |
| <p>朝日会長</p> | <p>ただ今のご説明についてご質問、ご意見等ございますか。</p> <p>私からの提案ということでご紹介いただきましてありがとうございます。皆様、様々な面にご関心があったり、精通されていらっしゃると思います。年2回の会議ですので、より焦点を当てて効果的に審議を進め</p> |

| | |
|---|--|
| <p>事務局 (障害者福祉課 小松主査)</p> <p>朝日会長</p> <p>4 その他</p> <p>事務局 (障害者福祉課 荻原副課長)</p> <p>田嶋部長</p> <p>事務局 (障害者福祉課 荻原副課長)</p> | <p>たいと思っています。会議体への出席を求めるものではございませんので、次年度からご理解とご協力をよろしく申し上げます。</p> <p>続いて議事(4)「来年度スケジュール(案)について」説明をお願いします。</p> <p>— 来年度スケジュール(案)について説明 —</p> <p>このことについてなにかご質問等ございますでしょうか。 よろしいでしょうか。 ないようでしたら、以上をもちまして、議事を終了し、議長 の役割からおろさせていただきたいと思えます。ご協力、誠にあり がとうございました。事務局にお返しいたします。</p> <p>朝日会長ありがとうございました。続いて次第の4その他でございま すが、委員の皆様から何かございますか。 ないようですので、事務局から一点お伝えします。今回の会議を最後 に、現委員の皆様任期は令和7年5月31日で満了となります。公募 委員については、現在、市広報紙やホームページで募集をかけていると ころです。皆様には、これまでの間、お力添えをいただき、ありが うございました。 それでは、閉会にあたり健康福祉部長の田嶋よりご挨拶申し上げます。</p> <p>— 挨拶 —</p> <p>以上をもちまして、令和6年度第2回東松山市地域自立支援協議会全 体会を終了いたします。本日はありがとうございました。</p> |
| <p>上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。</p> | |
| <p>令和7年 4月 1日</p> | <p>署名委員 <u>横田 大輔</u></p> <p>署名委員 <u>原子 一彦</u></p> |